

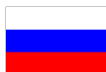
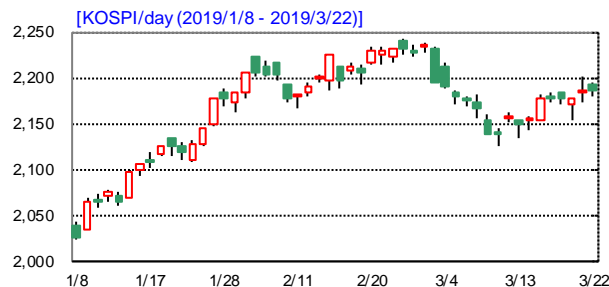


【韓国】 総合指数は週間で0.5%高と続伸、今週は米株相場をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.5%高と続伸。米国の株式相場や海外イベントを意識した展開だった。週明け18日は前週末の米株高が支えとなり、上昇スタート。ただ、19-20日は米FOMCの結果発表を前にした様子見ムードが広がる中、目先の利益を確定する動きが強まり、小幅ながら続落した。米中通商協議の先行き不透明感なども指数を押し下げた。一方、FOMCでは年内の利上げを見送る方針が示されるなど「ハト派」的な結果。米長期金利が低下し、新興国市場への資金流入期待が高まる中で21-22日は指数が上昇した。今週も引き続き米株相場をにらんだ展開か。米中通商交渉を巡る動きでは28-29日に北京で閣僚級協議が開催される。国内では27日に消費者信頼感指数、29日に鉱工業生産などが発表される予定。

▼指数チャート

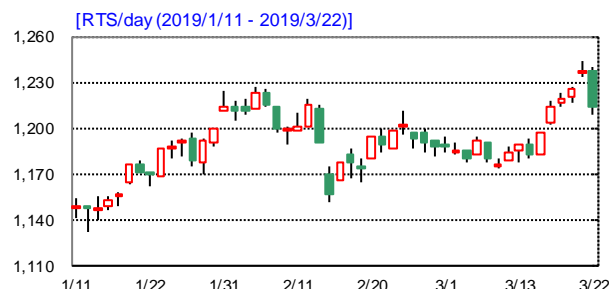


【ロシア】 RTS 指数は1.4%高と続伸、今週は欧米株価をにらんだ神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.4%高と続伸。原油相場やルーブルの上昇、米FOMCの結果を受けて一時は約11カ月ぶりの高値をつけたが、週末の欧米株安を受けて上げ幅を縮小した。原油相場やルーブルの上昇、予想以上のハト派的な米FOMCの結果を背景に指数は21日まで5日続伸。ルーブルは、米国の緩和的金融政策の長期化期待や変動利付き国債に対する外国人投資家の需要継続が支援となった。22日は軟調な経済指標を受けた欧米株の下落やルーブルの大幅な反落が嫌気され、指数は前日比で2.0%安と大きく下落して終了した。個別銘柄ではルクオイルが週間で2.3%高、ズベルバンクが2.0%高、ロスネフチが1.8%高と上昇し、指数を押し上げた。今週はルーブルや欧米株価の動向をにらんだ神経質な展開か。

▼指数チャート



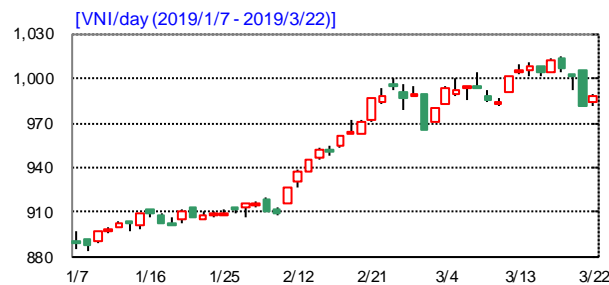
【ベトナム】 ベトナム指数は1.5%安と3週ぶり反落、今週は押し目買いが下支え

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.5%安と3週ぶりに反落。米中通商協議をめぐり、中国が米国の要求に抵抗していると伝わり、交渉の先行きに対する不透明感が嫌気された。週明けは米FOMCでの利上げ休止表明期待を背景にリスク選好が強まり、指数は上昇してスタート。しかし、米中通商協議で中国が米国の要求に抵抗しており、一部の米当局者が懸念していると伝わった上、第1四半期のアジア企業景況感が約3年ぶりの低水準となった事態も嫌気され、不動産株や金融株が下落。指数は21日に約3週間ぶりの安値をつけた。22日は押し目買いで反発したものの、週間ではマイナス圏で終了している。個別ではビンホームズ、ペトロベトナムガスが2%前後下落し、指数を押し下げた。今週は押し目買いが下支え要因となり底堅い展開か。

▼指数チャート

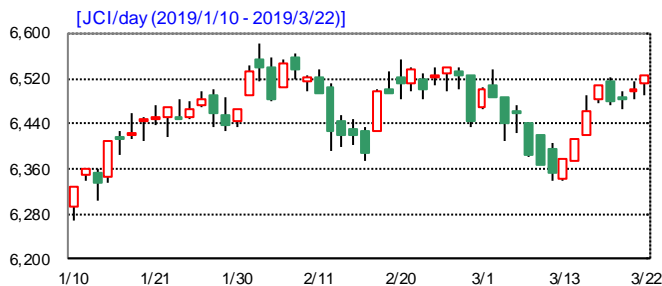


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.0%高、中央銀行が政策金利の据え置きを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 1.0%高と続伸。前週からの勢いを引き継ぎ、おおむね堅調だった。週初の 18 日は通信株と金融株が買われ、指数は終値で約 3 週間ぶりに 6500 ポイントを回復。19 日は 5 営業日ぶりに反落したが、20 日に買い戻されると、21 日は米 FOMC 後の声明文に盛り込まれた年内の利上げを見送る方針が好感された。同日に発表されたインドネシアの政策金利は市場の予想通り 6.0%に据え置かれている。指数は 22 日も買い優勢の展開が続き、3 日続伸して引けた。今週は国内の経済イベントが少ない中、4 月 17 日に投開票が行われる大統領選に向けた動きも株式相場で意識されそうだ。

▼指数チャート

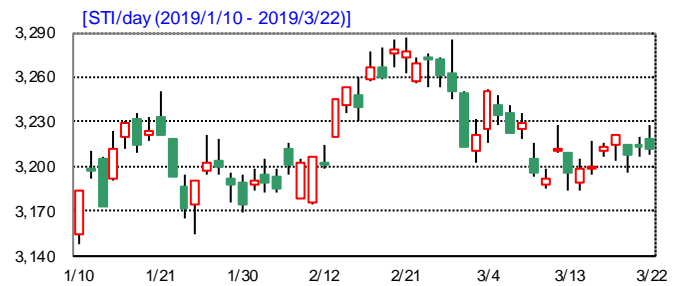


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%高、2 月非石油地場輸出の上振れを好感

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%高と続伸。1 週間を通じて終値ベースで 3200 ポイント台を維持した。週初の 18 日は 2 月の非石油地場輸出が前年同月比 4.9%増と市場予想の 3.4%減から大幅に上振れしたことが好感されて上昇。19 日まで 4 営業日続伸した後、20 日は米 FOMC 後の声明発表を控えた様子で売られたが、21 日は政策金利の据え置き決定を受けて買い戻された。ただ、22 日は小幅に反落して引けている。今週は 25 日の 2 月の CPI に続き、26 日には鉱工業生産が発表される。外部要因では 28-29 日に北京で開催される米中貿易摩擦を巡る閣僚級協議の行方が株式相場を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート

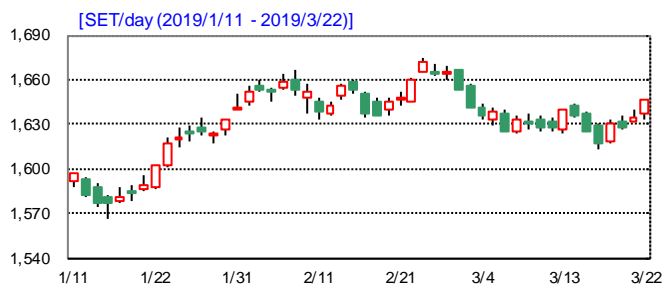


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.3%高、2 月の輸出(通関ベース)は前年同月比 6.0%増と好調

SET 指数は週間で 1.3%高と 4 週ぶりに反発。週後半の上昇が指数を押し上げた。週初の 18 日は 3 営業日続落し、終値ベースで約 2 カ月ぶりの安値を更新。その後は一進一退の値動きが続く中、21 日は 2 月の輸出額(通関ベース)が前年同月比 5.9%増と市場予想の 1.0%減から上振れた効果で買われた。22 日は傘下の生命保険事業売却について香港の FWD グループとの交渉を 2 年ぶりに再開したサイアム商業銀行が指数上昇をけん引し、続伸して引けている。今週は 26 日に 2 月の鉱工業生産が発表される予定。民政復帰に向けて 24 日に投票が行われた総選挙後の政局の動向に対する市場の反応も注目される。

▼指数チャート

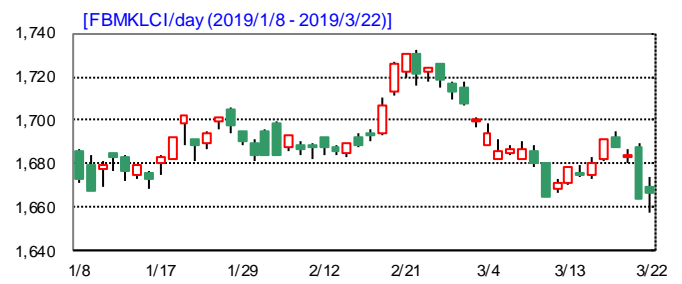


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.8%安、2 月の CPI は 2 カ月連続のマイナス成長

クアラルンプール総合指数は週間で 0.8%安と反落。週後半の下落が痛手だった。18 日はテナガ・ナショナルが指数上昇をけん引して続伸したものの、その後は買い材料に乏しく 3 日続落。特に 21 日は物価の下落傾向を受けて中央銀行が近く政策金利の引き下げを実施するとの臆測が広がり、銀行株が売られたほか、米ドル安・リング高の影響で輸出関連株が下落し、指数は前日比 1.2%安と下値を広げた。ただ、22 日は小幅ながら反発して引けている。同日に発表された 2 月の CPI は前年同月比で 0.4%低下し、2 カ月連続のマイナスとなった。今週は経済指標の発表が少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。